



# 港南中だより

令和5年11月号  
港区立港南中学校



校長 佐々木 希久子

11月に入りました。11月は「霜月」というぐらいい肌寒くなるころですが、今年は地球温暖化（「地球沸騰化」という言葉も生まれました。）の影響でまだ暑い日が続いています。朝晩はそれなりに涼しくなってきましたので、寒暖差がある毎日は体調を崩しやすくなります。各自、免疫力を弱めないよう規則正しい生活（食事、睡眠、運動）を心がけてください。

さて、振り返ってみますと、10月は行事の多い月でした。港南中学校で運動会と並ぶ二大行事の学芸発表会も先日行われました。弁論、英語スピーチ、運河学習、港区海外（オーストラリア）派遣事業の報告・発表。ダンス部と吹奏楽部の部活動の発表。そして合唱コンクール。報告・発表者は日ごろの学習の成果をしっかりと発表しました。さらに本日は港区総合防災訓練でした。中学生として、地域の人たちと一緒に「助けられる人から助ける人へ」なることが目標です。9月に実施したプレ防災で学んだことを、今日は地域の皆さんや小学生の皆さんに教え、体験のお手伝いをさせていただきました。学芸発表会するとき、弁論で、災害の備えをしていくことの大切さ、そのための知識の大切さを発表している生徒がいました。港南中生として、防災についてしっかりと考えていてくれるなど、とても感心し、嬉しく感じたの憶えています。そして、生徒の皆さんが正しく知識を理解してほしいと同時に感じました。

学校で学ぶ学習内容は「知識」だと考えている人が多くいます。実際、毎日の授業では覚えることがたくさんあって復習を適宜していかないと定着せず、テストで答えられなかつたという経験は誰にでもあると思います。知識は自分で学習していく際には取り掛かりやすく、予・復習もやすく、勉強方法も思いつきやすく、工夫もしやすく、テストの点にも直結するものも多いでしょう。これはその通りです。その上で、これまでも幾度となくお伝えしていることとですが、学校で学ぶ学習内容は、「知識」のほかにも「技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力」「主体的に学習に取り組む態度」「人間性」です。知識だけなら一人でもある程度は身に付けることができますし、家でもかなりのことができます。知識は学びの土台となるもので多くもっているのに越したことはありません。

しかし、知識を付けるということ自体は、学びのゴールではありません。大切なことは「身に付けた知識をどう使うか」なのです。

得た知識を使って実際にやってみる。英語の単語や文法の知識を使って、英文を読んだり書いたり、話したりする。防災の知識を使って地域の方に説明する。実演する。国語で得た知識を使って作文を書き、それを相手に分かりやすくかつ説得力をもって発表する。社会科や各教科、道徳、総合等、学校生活のすべてを通して、日々の学習で得た知識を元に、「平和」について考えをまとめて発表したり、他者と話し合ったり、戦争はしてはいけないことを説得したりする。「人権」についてプレゼンテーションし、一人一人の人権が守られなければならないことを理解させ、納得させる。ごく一部の例ですが、知識を得ることだけでは達成できない学習事項が学校では多くあります。多くの人が実感しているところだと思いますが、これについては一人で学ぶよりも複数の人で学んだ方が身に付きやすいです。

さらに学校での学習で大切となるのが「学びに向かう力」です。わたしたちは誰にでも分かっていることです。でも、勉強は、すぐやる気のあるときと、どうしてもやりたくないときとがあります。しかも、やらなければならないときに限ってやる気が失せたり、他のことをしたくなくなったりします。だからこそ、学びに向かうには「力」が必要なのです。自分の気がならないとき、他にやりたいことがあるとき、とても勉強どころではないとき、「勉強は大切」であるというように、自分を理解し、自らの到達点と未熟点を理解し、その差を埋める地道な努力を惜しまない心を維持する「力」です。或いは、学習規律を理解して守り、授業にまじめに参加することの大切さを理解して実行に移す「力」です。この力を付けることこそ「主体的に学習に取り組む態度」と直結している大切な部分です。

では、「人間性」は？ 次号をお楽しみに(´o`)/\*